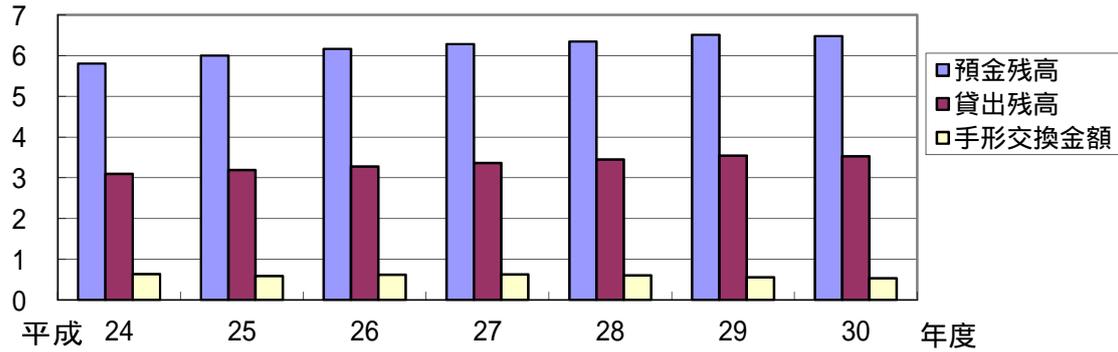
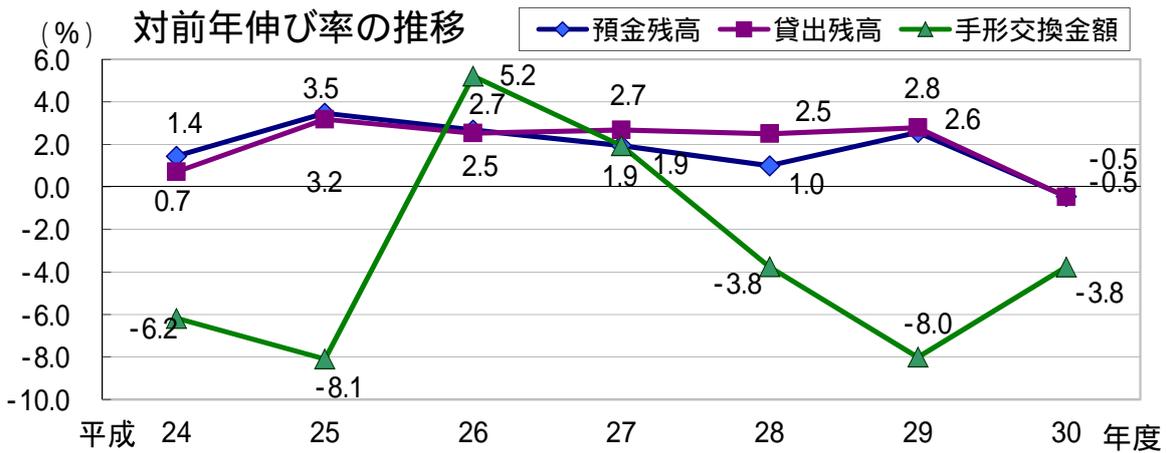


県内金融経済の概況

(兆円) 預金残高、貸出残高、手形交換金額の推移



(%) 対前年伸び率の推移



資料 1 預金残高、貸出残高 日本銀行長崎支店ホームページ「県内業態別預貸金残高」
 2 手形交換金額 長崎・佐世保両銀行協会調

(平成30年度長崎県経済の概況)

平成 30 年度の長崎県経済は、緩やかな回復を続けた。

最終需要面をみると、公共投資は九州新幹線西九州ルート関連工事等の大型案件が進捗するもと、引き続き高水準で推移した。住宅投資は、消費税率引上げ前の駆け込み需要を見据えた着工がピークアウトし、弱めの動きへと転じた。設備投資は、短観調査をみると、先行きの需要増加を見据えた大型投資や老朽化更新投資、省力化投資等により前年を上回った（全産業：前年比+14.8%）。個人消費は、夏場の猛暑や暖冬といった天候不順の影響による振れはみられたものの、総じてみれば底堅く推移した。観光関連では、外国人観光客の増加や「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録の効果がみられるもとで、堅調に推移した。

生産面は、用途が拡大した電子部品等や、国内向け設備投資需要が堅調な機械・重電機器において増加基調となった。一方、造船は受注環境の厳しさから、持ち直しに減速感がみられた。

労働需給は、引き締まっており、人手不足感の強い状態が続いた。この間、雇用手所得は名目賃金の伸び率鈍化によりやや弱含んで推移した。

消費者物価は、前年比+2%程度で推移した。

(日本銀行長崎支店)